

- 3) 増田翼「人口減少地域において保育職への接続・適応をどう考えるべきかー『円滑な移行の促進』がもたらすメリットとデメリットについてー」関西教育学会第71回大会、関西学院大学、2019年11月16日

9. 保育者養成論

人口減少地域において 保育職への接続・適応をどう考えるべきか

ー「円滑な移行の促進」がもたらすメリットとデメリットについてー

2019年11月16日(土)10:30～
仁愛女子短期大学
増田 翼

1. 問題の背景と「円滑な移行の促進」

transition

Transition (移行・変遷・推移)とは

the process or a period of changing
from one state or condition to another

(Oxford Dictionary)

ある状況(状態)から他の状況(状態)への
移行変わりの過程もしくはその時期のこと

a change from one system or method to
another, often a gradual one

(Cambridge Dictionary)

あるシステムや方式から別のものへと移行変わること
(多くの場合、徐々に変化する)

保育者になる進路上に存在するTransition

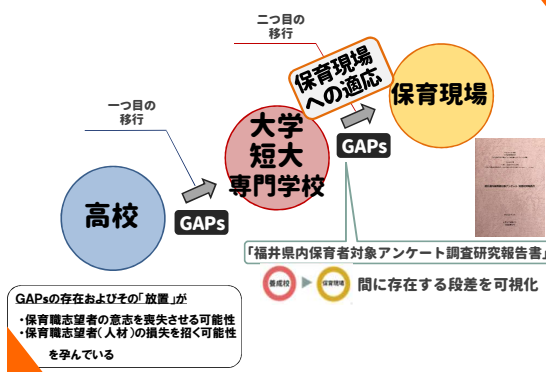


図1 福井県内18歳女子の人口推移

出典:「福井県の将来推計人口(仮定)」(福井県統計課)
「福井県推計人口(仮定)」(4月1日現在)「18歳女子」(その世帯内に18歳・高校3年生になる女子)の推計。
2020年以降の数値は、2019年4月1日現在の各年齢の人口数をもとに推定した。

3. 「円滑な移行」のデメリット

「円滑な移行」がもたらす弊害

- ・ 管理主義的、評価主義的手法の導入
→「質の標準化(スタンダード化)」に直結する可能性も
- ・ 葛藤やミスマッチの軽減が目的
→ルールを敷き、お膳立てすることで失うこともあるのでは？
- ・ 保育者への成長を「予言的」「連続体」として把握
→「危機」を通じて他者への信頼の意味を悟り、
思考力や判断力を逞しくし、挑戦する際の慎重さと
大胆さを身につける、といった経験は貴重なのでは？

栗田健文「ガバナンス改革における教職の位置と『教員育成指標』をめぐる問題」
日本教師教育学会『年報』第26号、2017年

「組織の『改善』や教職員の『成長』を組織内外で透明化し統制する装置としてスタンダード策定が進められてきた」

スタンダード策定施策は

「教職の他律性の強化に向かっているのではないかと懸念される」

→監査可能な対象を生み出しているに過ぎなくなってしまう

木村浩爾「中教審の提唱する『教員育成指標』の何が問題か」
『人間と教育』No.90、旬報社、2016年6月

「本来は個々の教師の力量形成の手段にすぎないスタンダードが自己目的化し、儀礼的にその形式だけが追い求められるようになり、教育の自由や自発性が奪われ、専門職としての教師にとって欠くことのできない『省察的実践家』としての教師の力量が損なわれる危険性をはらんでいる」

→これでは本末転倒である

ボルノー著、崎島勉雄訳『実存哲学と教育学』運筆社、1986年、56頁

教育者はどの程度まで危機を、あえてみずからみちびき入れるべきか、そしてどの程度まで、他の人間を、まさにこの危機のなかへおとしこむべきであろうか。じっさい、あたらしい段階の達成は危機をたえぬことに結びついているのだから、危機を回避したり危機を無害のものたらしめることは、人間の決定的な発展可能性をさまたげることになる。子供からまろろの困難をとりぞいでやることは、子供を不適当な無邪気さにひきとめることになるうし、それどころか、一般的にいつて、危機を回避することによって、人は究極の実存的経験をさまたげられることになるう。人間生活における実存的契機が強調されるだけ、それだけいっそう危機の意義もまたたかく評価されなければならない。このような見地からして、完成への過程はすべて、必然的に、危機の突破とむすびついている。

※保育者養成場においては、(質保証の観点から:補助金獲得のために)
「即時性」「一回性」「偶然性」を大切に「相互探究」的教育よりも、
「予定通り」「アウトカム基盤型」の「予言」的教育が勢力を強めている

4. それでもなお「円滑な移行」が求められる理由 (まとめにかえて)

Transitionと今後の日本社会

- ・「入口」過ぎると途端に変化が求められる(即対応・即戦力)
 - ◆「新参者」を優しく見守る体制がなくなった
 - 【例】非正規職員の増加による新卒者の担任業務
 - ・ Transitionを見据えた関係者間の連携→接続の一般化
 - 【例】保幼小連携、高大接続
 - ・ 社会全体の人生観の変化?
 - ◆「見通しをもつ」ことが重視され、失敗・挫折を回避し、遠回りしない効率的な人生設計が求められている
- ※大学・短大が、もはや「失敗・挫折の場(若さゆえの冒険の場)」ではなく、「職業への確実で効率的な接続の場」になっているのでは？

問題提起

- ・ 福井県内の保育を維持する(バランスを保ちながら徐々に縮小していく)ためには、種々の弊害が予想されたとしても、「保育職への接続・適応」を第一に考えざるを得ない
 - ・ 今後、全国で起こり得る人口減少に対して、養成校側は「教育目標」「教育内容」「教育方法」等の点でどう対応すべきか(「学生は常に存在する」という前提から脱却したうえで養成教育を問うべき)
- ※「質の標準化」と「教育的である」ことは両立可能なのだろうか？
※「教育(システムも学制的議論も)」が人口増加を前提とした昭和のロジックによって営まれていることにそろそろ批判的になるべきでは？